

アートの楽しさと同時に、デザインの素晴らしさも美術館から発信するべきだと考えています。そのためには、これからはもっと広いジャンルから才能豊かな作家を見つけ出していかなくてはなりません。

金沢21世紀美術館で、2006年に川崎和男さんの展覧会を行いました。彼は、眼鏡をはじめとするデザインで世界的に有名な作家で、彼のデザインにはアトに通じる美があります。川崎さんは交通事故が原因で車いす生活を送るようになり、東京で働いていましたが退職し、一時故郷の福井に帰ってからは武生のナイフ、鯖江の眼鏡など、地元産業の復興に力を入

アートとデザインの楽しさを美術館で

—— 豊 養 ——

れ、大変貢献されました。ものです。毎日使っても飽きず、使用者と対話ができればよいというのではなく、機能以上の魅力をその優れたデザインで表現されています。

現在彼は大阪大学で研究者として教育者として、科学とアートを包括する新しいデザイン思想の創出と実践に果敢に取り組みられています。「作品は製品でありまた商品であり、背後には冥府の階段が下りてきている。デザインという手法にきわめて忠実でありたい。」と彼は言っています。

デザインは、夢を与えるもの。本を読んだり、すてきな音楽を聴いたり、美術館へ行ったりすることにより、インスピレーションを得て、生まれるのです。未来を担う子どもたちも同様に、勉強だけではなく、幼い頃から美術館に親しみ、本物に触れ、感性を培って成長してほしいと考えています。美術館の存在をもっと身近に、敷居なく気軽に行けるようにしていきたいと考えています。

随想

(みの・ゆたか 兵庫県立美術館長)